



ペット墓の阿弥陀さま

手をつなぐとも

等友

S
60・10
i
生

〒111-0041
台東区元浅草
2-10-17
3841-2844
真宗大谷派
勝龍山
等覚寺
住職
朝倉創

令和5年2月
第112号
責任編集
朝倉 翔

親死ぬ 子死ぬ 孫死ぬ

これはあたり前

孫死ぬ 子死ぬ 親死ぬ

こりや大變

「心に残る仏教のことば」法蔵館

一休宗純（一休さん）は、知り合いに何かめでたい言葉を書いてほしいと依頼され、「親子死 孫死」と書いたそうです。依頼主は「死死」とは縁起悪いと怒ったところ、一休は、それでは「孫死 子死 親死」の方があなたにはいいのか、と問われたそうです。家族が親、子、孫、と順番通りにお浄土へ行くことの有難さをあらためて私たちに投げかけて下さいます。

法話紹介

報恩講（二〇二二年十月）の法話

◎お寺のあり方

皆さんにとって、お寺ってどういう存在ですか？

お寺と言うと、お墓があって、皆さんのご先祖やご縁のある方が眠っている。だからお墓参りにいらっしやる場所というのが一般的な認識ですね。では親鸞聖人の時代はどうだったかというと、親鸞聖人自身はお寺を持っていなかったんです。本願寺は親鸞聖人のひ孫の覚如という方が建てられました。親鸞聖人が生きていた頃は、お寺ではなくて、応援してくれる方のお家などに住んでたりしてたんです。基本的にあまりお金を持ってないので、皆さんの支えによって生きられたことが記録に書かれています。ということでは親鸞聖人の

時代はお寺がなかった。しかし、ご存知のようには五百三十八年に日本に仏教が伝わり、聖徳太子が仏教をもとにする生活をしようと広め、平安時代にお寺がたくさん建ちました。ただこの時は密教系のお寺が多く、貴族やお金持ちが、加持祈禱や病気を治すために自分の私財をつぎ込んで、お寺を囲っていた時代で、一般の庶民にはあまりお寺との関わりがありませんでした。そして時代が進んで行くときと寺子屋ができません。寺子屋は、まだ教育が広まっていなかった時代、お寺の住職が読み書きや学問を教えたりしていました。江戸時代になると、キリスト教を排除するために寺請制度というものを作って、みんなお寺に必ず属しなさいということになり、お寺がみんなの戸籍を管理するようになり、そこから今の時代に続いていくというのがお寺の歴史なんです。それでは今生きてる皆さんにとってのお寺の存在というのはどういうものか。

◎資本主義経済の中で

まず、今がどういう時代かというのと、資本主義経済ですね。何を中心に回っているかと言ったらお金です。経済の中心はお金。よく「先立つものがない」と言いますよね。先立つものって、大体お金を指します。でも本来は、先立つものってことは、まずあるべきものの、一番大事なものって意味です。これは本当にお金なんですかね？本来なら、生きる目的だったりとか、夢とか目標とか、そういうものが私達にとって先立つものであるべきなのに、先立つものがないんですとか言うのと、もう当たり前前のようにお金がないってことを表してしまうようになってる。あるご高齢のおばあちゃんが、毎日銀行の通帳残高を見るのが楽しみだと言います。それどうするか聞いたら、老後のためだと答えたという笑い話もありますよね。あなたにとっての老後はいつなんだという。お浄土にお金を持って

いけませんよ。そういう時代です。

ここでアンパンマンの歌を紹介いたします。「何のために生まれて なにをして生きるのか。答えられないなんて そんなのは嫌だ

何が君の幸せ 何をして喜ぶ わからない まま終わる そんなのは嫌だ」

これ子ども向けの歌なんですけど、人生の大事なことが書かれていると思いませんか。何のために生まれて、何をして生きるのか。わからないまま終わる。終わるといのは死んでいくということですね。そんなのは嫌だ。こういうことをやなせたかしさんは歌詞に込めている。この歌は生きていくうえで大事なことを歌っているなと思います。



次に紹介するのは、あるメキシコの漁師とアメリカから来た旅行者のお話。

メキシコ人の漁師が、小さな網で魚を捕ってきた。その魚はなんとも活きが良かった。

それを見たアメリカ人旅行者は、「素晴らしい魚だね、どのぐらいの時間で取れたの？」と尋ねた。すると漁師は、「そんなに長い時間じゃないよ」と答えた。すると旅行者は、「

もっと漁をしていたら、もっとたくさん良い魚が獲れたんだろうね、惜しいな」というと、漁師は「自分と家族が食べる分だからこれで十分だよ」と言った。「じゃあ余った時間で君は何してるの？」と旅行者が聞くと漁師は「日が高くなるまで寝て、それから漁に出るんだ。戻ってきたら子供と遊んだりシエスタ（昼寝）したり、日が暮れたら友達と一杯やりながら、ギターを弾いたり歌を歌ったりして過ごしているよ」と答えた。するとその旅行者は、真面目な顔で漁師に向かって

こう言った。「僕は実はハーバードビジネススクールでMBAを取ったんだ。（MBAは経営学修士と言って経営に関する大変レベルの高い資格）そんな僕から君にアドバイスしよう。君は毎日もっと長い時間漁をしよう。それで家族の分以外の余った魚を売ろう。それでお金が貯まってきたらもっと大きな漁船に買い換えなさい。そうすると漁獲高が上がって、儲けもどんどん増えていく。その儲けで漁船を二隻三隻と増やしていこう。すると大きな船団ができていく。そしたら今度は、仲買に魚を売るのはやめて、自前で水産加工工場を建てて、そこに魚を入れていく。もうその頃には君はこのちっぴけな村を出てメキシコシティやニューヨークへと進出していくだろう。そうしたら君はマンハッタンのオフィスの一番上からその企業の指揮を執るだろう」と。漁師はそこでこう聞いた。「そうなるまでにどのぐらいかかる？」「そうだな、

二十年ぐらいかな。」「じゃあその後はどうなるの？」「その後君はすごいことになるよ。」旅行者はニンマリと笑って、「今度は自社株を売却して君は一気に億万長者になるんだ。そうしたら引退して海岸近くの小さな村に住んで、日が高くなるまでゆっくり寝て、日中は釣りしたり子供と遊んだりシエスタしたり、夜になったら友達と一杯やってギターを弾いて歌ったりして過ごせるだろう」と。

聞いていただいたらわかるように、これは笑い話です。今と同じ生活を二十年仕事をした後にもたやれということなんですが、これって笑い話でもあるけれど、資本主義を生きる私達のあり方を揶揄されてるような気がしませんか。何のためにお金を稼いでいるんだろう。いや、老後のためだ。でも一番お金が必要なは今じゃないか。何が言いたいかというと、大切なのは『今』ですよ。仏教

でも大事にすべきは、今だと教える。今の積み重ねが人生です。例えば来週どこどこへ行く、一年後どこどこへ行く。そのことを楽しみにしていても、その時生きてるかわからないのが私達の命ですからね。

◎日常と非日常

資本主義というのは、優劣の世界です。頑張って人より一歩でも先に行くんだ、そうすればお金を稼げるぞという。学業もそう。うちの息子もですが、これから受験を迎えます。人との競争ですよ。そういう中で生きてると人間どうなるか。疲れちゃうんですよね。自分が自分らしく生きられないから。もっと背伸びしなきゃいけない。そういう社会が続いている。その中だからこそお寺は何を提供できるかということなんです。僕はこう考えます。お寺というのは「非日常」。非日常と接することができるとがお寺であるべきだと

思っているのです。皆さん、会社勤めやお仕事、家事、育児、それぞれ日常生活があり、忙しくあつという間に一日が過ぎ一年が過ぎていく。それに対して『非』がつくとどうなるか。よく非日常というと、旅行に行くことや、テーマパークが非日常だっていいですね。日常を忘れて、みたいな言い方します。旅行もなぜ楽しいかといったら、帰ってくる家があるからですよ。帰ってくる家がないのに、旅行とか行ったら旅行中不安で仕方ないですよ。パスポートや全財産持ち歩いてどこか行って、次どこ行こうと考えても不安でたまりません。やっぱり安心して帰ってくる場所があるから、旅行を楽しめるわけですね。

お寺こそが今の時代、本当の意味での非日常であるべきだと思います。忙しく日常を過ごしていると、自分というものがなかなかわからない。生きる意味、生きていく目的を考える時間がない日常から離れ、お寺で大事

なこと気づいてほしい。今日もそうですね。皆さんこうやって日曜の大切な時間を割いてお寺に集まって。お手元にお持ちになっていられるお経本も、八百年前に書かれた言葉が載っている本ですよ。八百年前のものを日常生活で触れることありますか？そんなお経本をこうやってみんなと一緒に味わっているわけです。または阿弥陀さんという、遠い昔の仏さま、私達を救うぞと誓われた仏さまに手を合わせる。お墓では、亡き方を偲んで手を合わせる、こういう時に忙しい日常からちょっと歩みを止めて、本当に大事なこと気づいていくわけです。

人間というのは、生きていく先ばかり見ていくと、大事なことが見えないきます。どうやったら大事なことが見えるかっていったら、死を通していのちを見ることができないきますね。何が楽しいのか、何が嬉しいのか、自分にとっていいことではないかな？楽しいこ

とはないかな？と欲を満たす方ばかりを私達は考えてしまうけれども、それでは本当に大事なものに気づけない。死を通して見つめることによっては、ようやくいのちというものがどういうものか見えてくると思うんです。その場がお寺であったり、ご法事の場であったり、葬儀の場であったりする。死を縁とする場は現代にはこれしかないんですね。

これは決して暗い話ではないんです。これはむしろ明るい話だと思います。死を見つめて生きていくことこそが本当に明るく輝いた生き方である。これが今の世の中だと、縁起悪いとか言っていて、死をタブー視してきた。だからこそ今の時代暗いんです。みんな何のためには生まれて、なにをして生きるのかわからないまま終わっていく。アンパンマンの歌の通りの人生を私達は歩みがちであるのです。

普段、なにか集まりがあると、どこどこ会社の○○ですとか自分のことを言うのが普通

じゃないですか。でもお寺にいらっしやる方って、一つの共通点しかありません。近い方を亡くした経験があるということだけです。あとはもう一切、会社の立場とか、お金のあるなしも関係ない。関係なく集まれる場って現代の社会になかなか無いんです。どうしても衣を着て行かなきゃいけない。この場では、語弊があるかもしれませんが、裸でいられる。みんなが裸の、ありのままの自分で出会える。それこそ非日常である、お寺の存在意義といえるのではないのでしょうか。

釋 創龍



お寺にお守りが無い？

年始になると、テレビのニュースでは初詣に行かれています。参拝客の様子が報じられ、その中でお守りを購入されるような場面も見受けられます。僕の友人からお守りのことを聞かれるように、皆さんの中では、お寺や神社といえはお守りといったイメージもあるかもしれません。ですが、等覚寺をご覧いただけたらわかる通り、私たちの浄土真宗にはお守りはありません。今回はこのあたりを少し詳しく深掘りしていききたいと思います。

そもそもお守りの起源を調べてみると、説ありますが、縄文時代にまでさかのぼるそうです。縄文時代の人々は魔除けとして勾玉を身につけていたそうで、それがお守りのもととなったようです。その後日本では六世紀ごろにお寺が呪符として配るようになり、本格的に「お守り」が浸透していきます。平安

時代に陰陽師が活躍していた頃には、医療が発達しておらず占いを頼りにしていたため、疫病や災難から守る目的でお守りを持ち歩いたといわれています。大阪府の四天王寺が所蔵する、平安時代後期の懸守（かけまもり）には、如来像が彫られた木製の円柱が納められていたことがわかっています。その他、神社の石や砂に霊力が備わっているという考え方から、旅に出る時、神社の境内にある石や砂を懐中に入れていくという風習の記載が残っています。

このように、昔から私たちではどうにもできない病気や事故、災害などから身を守るといふ願いがお守りには込められているわけですから、ではなぜ浄土真宗ではお守りが無いのでしょうか。



私たちは毎日いろいろなことに悩み苦しむ、いいことがあったり悪いことがあったりしながら生きていくわけですが、私たちの持つ煩惱のおかげで、何か悪いことがあった時だけ、自らを省みずに他のものや人のせいにしてしまえます。そんな弱い存在の私たちを救おうとして下さっているのが阿弥陀如来という仏さまなのです。そんな阿弥陀さんにすべてをお任せして今を一生懸命に生きていこうというのが浄土真宗の考えですから、お守りは必要ないのです。もちろん、お守りを買うなどいうわけではありません。こうした考えをわかっていたただいた上で、お守りや迷信に執着しない生き方をしていたただきたいと思えます。



編集後記



こんにちは。翔です。今年はずいに旅行会が開催できるということで、今からもうワクワクしてしまっています。しかもご本山に上山ですから、いつもと違ってかなりの遠出。京都で何のお土産を買ってこようかと妄想がとまりません（笑）僕が参加した等友旅行会で京都に行ったのは、二〇一一年と二〇一九年の二回。そして今回で三回目になります。その時も本山である東本願寺の、普段は入れないような場所を見学できたりしたので、今回も楽しみです。聞くところによると、本山の中でご飯が食べれちゃうみたい・・・？ぜひ興味持たれた方は、初めての方でもお気軽に参加してみてくださいね。

備忘録 く法事の準備く

○まずはお寺へ日程連絡

回忌の確認をし、ご家族で法要希望日をお決めになりお早目にお寺へご連絡ください

○当日必要なもの

- ・お布施(ご先祖さま合同で実施する場合は、ご先祖さま毎に包みを分けて下さい)
- ・お花代(本堂にお飾りするお花代で、一万円の実費)

○ご希望によってお持ちください

- ・お供物
- ・過去帳やお位牌
- ・遺影(小さいもの)

○服装は華美でなければ平服でも結構です。

(ご参加される方同士でお話しされてお決めください)
※お寺へお包みいただく表書きは全て「布施」と書いていただければ結構です。浄土真宗の場合は「読経料」や「霊前」という言葉は用いません。

備忘録 くお焼香作法く

○お焼香のタイミング

お勤め中に声が掛かりますので、それまでお待ちください。順番には決まりはないので、施主の方から前に出てご焼香ください

○お焼香作法

- ・焼香机の前に進み、合掌せずにご本尊を仰ぎ見ます。赤い香盒(香入れ)の蓋を開けて香盒の右に置きます。
- ・右手でお香を二回、香炉にくべます。(お香を額に頂くことはしません)お香の乱れを指先で直してから「南無阿弥陀仏」を称えて合掌礼拝をします。
- ・自分の後にお焼香する方がいれば蓋はそのままにし、最後であれば蓋を閉めて自席に戻ります。

備忘録 ～お葬式について～

○事前のご相談もお気軽に

亡くなられた後ではバタバタとしてゆっくり検討する時間がありません。お寺にご連絡いただければ葬儀までの流れなどご不明、ご不安な点のご説明もさせていただきます。

○葬儀の場所

基本的にどちらにでも伺わせていただきます。遠方でも泊まりがけでお勤めさせていただいておりますので気にせずにご依頼ください。また、可能な方はぜひお寺で「葬儀を」。故人が生前ご縁のあった等覚寺の本堂で、あたたかくおごそかなご葬儀をすることができます。

○葬儀の布施

この時お預かりする布施は通夜葬儀のお勤めの対価ではなく、亡くなった時を「縁にお寺の護持のためお納めいただくものです。どうぞお気軽にご相談ください。

備忘録 ～ご納骨について～

○ご納骨のみはお受けできません

永代供養墓ではなく一般墓地をご利用の場合、浄土真宗の教義に則って、葬儀式をお勤めしてからのご納骨となります。式のやり方のご希望等ご相談に乗れる部分もありますので、必ず火葬前にご連絡ください。

ご披露

等友へのご懇志

加藤伊知郎様 徳澤隆様 高橋愛子様
野口順子様 栗本信太郎様（順不同）

いつもご支援いただきましたしまして、誠にありがとうございます。この等友誌や等友会は、こうしたご支援から成り立っております。

令和五年行事予定

三月二十一日（火） 彼岸会・永代経

三月十八日～二十四日 春のお彼岸

四月二十一日～二十二日 旅行会

七月十三日～十六日 お盆

七月十六日（日） 盂蘭盆会法要

九月二十日～二十六日 秋のお彼岸

十月二十二日（日） 報恩講

◎お気軽にご参加ください。

※あくまで予定です。

開催が確定した行事は必ず事前にご案内いたしますので、別途ご確認ください。



令和五年年回表

一周忌	令和四年
三回忌	令和三年
七回忌	平成二十九年
十三回忌	平成二十三年
十七回忌	平成十九年
二十三回忌	平成十三年
二十七回忌	平成九年
三十三回忌	平成三年
三十七回忌	昭和六十二年
四十三回忌	昭和五十六年
四十七回忌	昭和五十二年
五十回忌	昭和四十九年
七十回忌	昭和二十九年
百回忌	大正十三年